

2024 年 6 月 13 日

2023 年度 期末連結決算**航空需要の回復や新商業施設のオープンもあり増収増益 4 期ぶりの黒字化**

関西エアポート株式会社は、2023 年 4 月から 2024 年 3 月までの第 9 期会計年度連結決算において、営業収益は 1,868 億円、営業利益は 340 億円、経常利益は 232 億円、当期純利益*は 155 億円を計上しました。

当期は、航空需要が一段と回復したことや関西国際空港第 1 ターミナルビルの新商業施設がオープンしたこともあり、前年度と比較すると、営業収益は 87%の増加、営業損益では前期比 488 億円の増益、経常損益は 489 億円の増益、当期純損益では 345 億円の増益となり、4 期ぶりに黒字化しました。

(連結損益計算書)

(単位：億円)

	2022.4-2023.3	2023.4-2024.3	増減	%
営業収益	999	1,868	870	+87%
外部費用	(709)	(1,087)	(378)	+53%
EBITDA	290	782	492	+169%
減価償却費	(438)	(442)	(4)	+1%
営業損益	(148)	340	488	-
経常損益	(256)	232	489	-
当期純損益*	(190)	155	345	-

* 「当期純損益」は、「当社株主に帰属する当期純損益」を記載しています。

(航空需要の状況)

前年度と比べると大きく航空需要が回復し、3 空港合わせた航空機発着回数は 34.2 万回（前年度比 +22%）、航空旅客数は 4,413 万人（前年度比 +60%）となりました。国際線旅客便については、2023 年 4 月の水際措置の終了以降、旺盛なインバウンド需要に牽引され、航空機発着回数、航空旅客数ともに大幅に増加しました。国内線についても 3 空港合わせた航空機発着回数は過去最高の前年度に次ぐ 2 番目の記録となりました。国際線貨物便の発着回数は前年度比 80%と前年度実績を下回ったものの、2019 年度比においては 143%と依然として高水準を維持しています。

	2022.4-2023.3	2023.4-2024.3	増減	増減率
航空機発着回数（万回）	28.0	34.2	6.2	+22%
関西国際空港	10.8	17.0	6.2	+57%
大阪国際空港	13.8	13.8	0.0	+0%
神戸空港	3.4	3.5	0.0	+1%
航空旅客数（万人）	2,759	4,413	1,654	+60%
関西国際空港	1,150	2,588	1,439	+125%
大阪国際空港	1,299	1,479	180	+14%
神戸空港	311	344	33	+11%

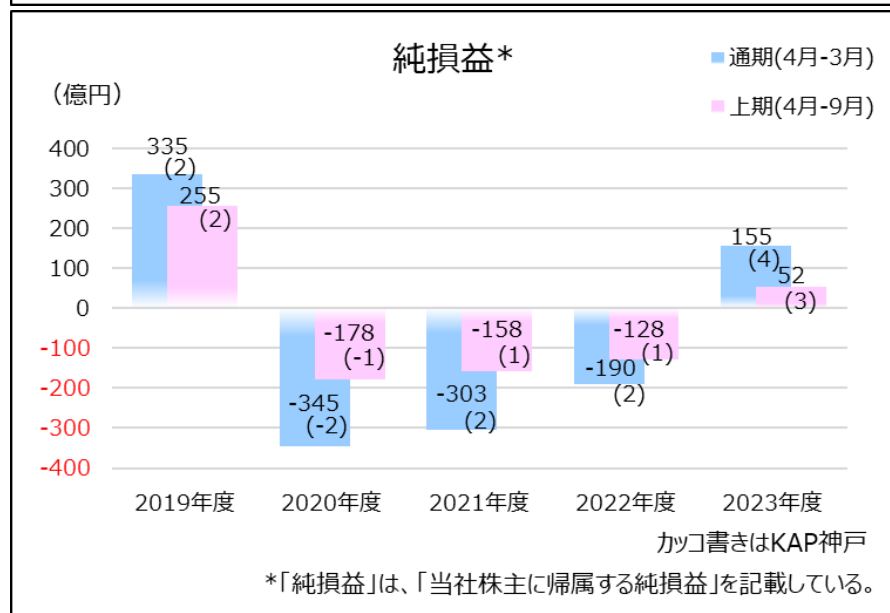
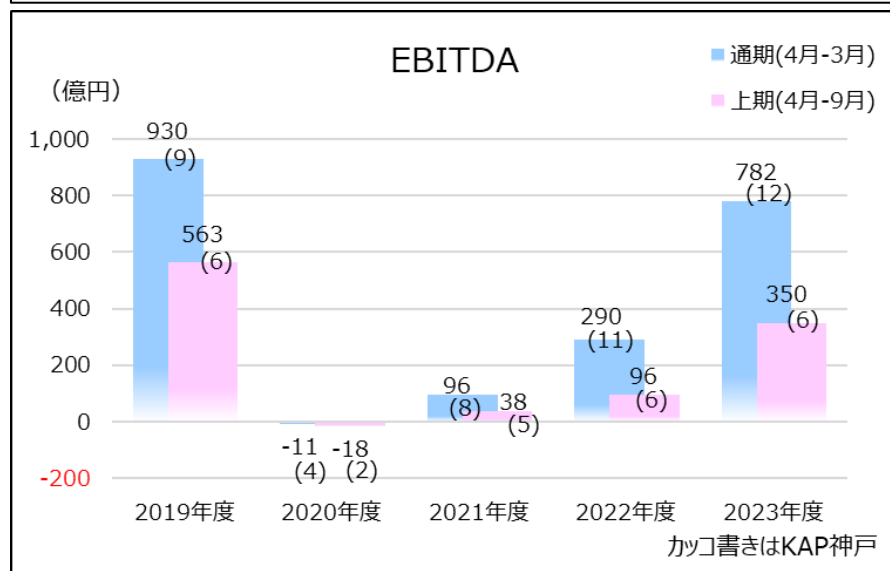
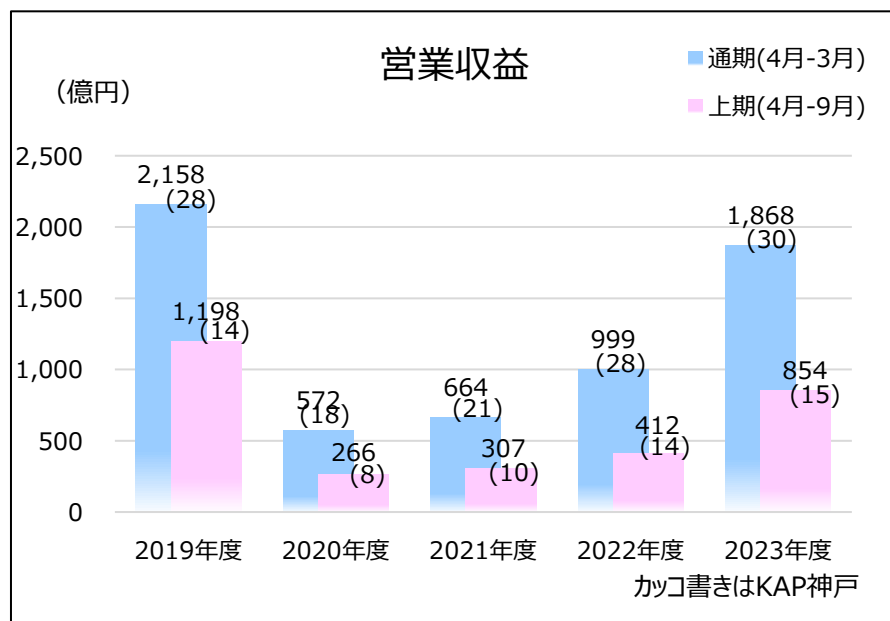
（連結貸借対照表）

2024年3月31日現在における財政状態は、前期末と比べると公共施設等運営権の償却により資産合計は減少し、1兆5,853億円となりました。また、短期借入金の返済などにより負債が減少した結果、負債合計は1兆5,425億円となりました。

（単位：億円）

	2023.3.31 現在	2024.3.31 現在	増減
流動資産	938	1,122	184
固定資産	15,104	14,731	(372)
資産合計	16,041	15,853	(188)
流動負債	703	642	(62)
固定負債	15,066	14,783	(283)
負債合計	15,769	15,425	(344)
株主資本	246	401	155
その他の包括利益累計額	6	7	1
非支配株主持分	20	21	1
純資産合計	272	428	156
負債・純資産合計	16,041	15,853	(188)

(参考資料) 連結決算の推移



連結損益計算書

〔 自 2023 年 4 月 1 日
至 2024 年 3 月 31 日 〕

(単位：百万円)

営業収益		186,832
営業原価		131,485
営業総利益		55,347
販売費及び一般管理費		21,369
営業利益		33,978
営業外収益		1,847
受取利息及び配当金	489	
持分法による投資利益	36	
その他の営業外収益	1,321	
営業外費用		12,587
支払利息	12,095	
支払手数料	43	
その他の営業外費用	448	
経常利益		23,238
特別利益		29
固定資産売却益	0	
補助金収入	28	
特別損失		966
固定資産除却損	761	
固定資産売却損	5	
固定資産圧縮損	8	
更新投資に伴う撤去費用	191	
税金等調整前当期純利益		22,300
法人税、住民税及び事業税	1,313	
法人税等調整額	5,437	
当期純利益		15,549
非支配株主に帰属する当期純利益		82
親会社株主に帰属する当期純利益		15,466

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

連結貸借対照表

[2024年3月31日現在]

(単位: 百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	112,173	流 動 負 債	64,173
現 金 及 び 預 金	81,818	買 掛 金	3,653
売 掛 金	10,376	未 払 金	11,149
契 約 資 産	257	未 払 費 用	3,900
商 品	5,493	1年内返済予定の長期借入金	4,203
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	1,352	1年内支払予定の公共施設等運営権に係る負債	30,508
1年内回収予定の差入保証金	2,227	未 払 法 人 税 等	2,065
未 収 金	6,690	契 約 負 債	1,674
そ の 他	3,956	賞 与 引 当 金	1,611
貸 倒 引 当 金	△ 0	ポ イ ン ト 引 当 金	35
		そ の 他	5,374
固 定 資 産	1,473,126	固 定 負 債	1,478,305
有 形 固 定 資 産	29,654	社 債	4,860
建 物 及 び 構 築 物	4,007	長 期 借 入 金	215,160
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	14,220	公共施設等運営権に係る負債	1,191,370
工 具 器 具 備 品	4,117	特 別 修 繕 引 当 金	48,205
土 地	578	退 職 給 付 に 係 る 負 債	7,014
建 設 仮 勘 定	6,679	そ の 他	11,695
そ の 他	52		
無 形 固 定 資 産	1,314,825		
公 共 施 設 等 運 営 権	1,242,407		
更 新 投 資 に 係 る 資 産	70,363	負 債 合 計	1,542,479
そ の 他	2,054	純 資 産 の 部	
投 資 そ の 他 の 資 産	128,646	株 主 資 本	40,060
投 資 有 価 証 券	1,041	資 本 金	25,000
退 職 給 付 に 係 る 資 産	347	資 本 剰 余 金	25,000
差 入 保 証 金	86,148	利 益 剰 余 金	△ 9,939
繰 延 税 金 資 産	40,017	その他の包括利益累計額	706
そ の 他	1,107	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	706
貸 倒 引 当 金	△ 16	非 支 配 株 主 持 分	2,052
		純 資 産 合 計	42,819
資 産 合 計	1,585,299	負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,585,299

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016 年 4 月 1 日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018 年 4 月 1 日からは関西エアポート株式会社の 100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西 3 空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北 1 番地 大阪市西区西本町一丁目 4 番 1 号（登記上）	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港 1 番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックスグループについて

1964 年に設立されたオリックスグループは、法人金融、産業/ICT 機器、環境エネルギー、自動車関連、不動産関連、事業投資・コンセッション、銀行、生命保険など、多角的に事業を展開する企業グループです。現在は、世界約 30 カ国・地域において、約 35,000 人の役職員により事業を展開しています。

オリックスグループの社会における存在意義は、「世の中がよりよい方向に進むきっかけとなる、“未来をひらくインパクト”をもたらすこと」です。この Purpose を軸に、グローバルで一体となり、社会に貢献してまいります。

詳細は <https://www.orix.co.jp/grp/> をご覧ください。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、13 か国において 70 以上の空港を運営しています。総合インテグレーターとしてのノウハウを駆使して空港の開発、資金調達、建設、運営を行うとともに、その投資能力と専門知識を活かした空港運営の最適化、施設改修、環境経営推進に取り組んでいます。

ネットワーク全体で 2050 年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするため、2016 年から他の空港運営事業者と先駆けて国際的な環境戦略を展開しています。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アジックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社 JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニックホールディングス株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱 U F J 銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

2023年度 期末連結決算

2024.6.13

Shaping a New Journey



アジェンダ



2023年度 期末連結決算の概要



営業収益分析



2023年度を取り組み





2023年度 期末連結決算の概要

航空需要の増加や新商業施設オープンもあり、4期ぶりの黒字化

【単位：億円】

1. 4月の水際対策終了以降、国際線を中心とした発着回数・旅客数の増加を受け、前年と比べて増収

2. 航空需要の増加に加え、関西国際空港の新商業施設オープンにより非航空系営業収入は前年と比べて大幅に増収

3. 前年からは損益改善、4期ぶりの黒字化

	2022.4-2023.3	2023.4-2024.3	増減	%
営業収益	999	1,868	+870	+87%
EBITDA	290	782	+492	+169%
営業損益	(148)	340	+488	-
経常損益	(256)	232	+489	-
当期純損益*	(190)	155	+345	-

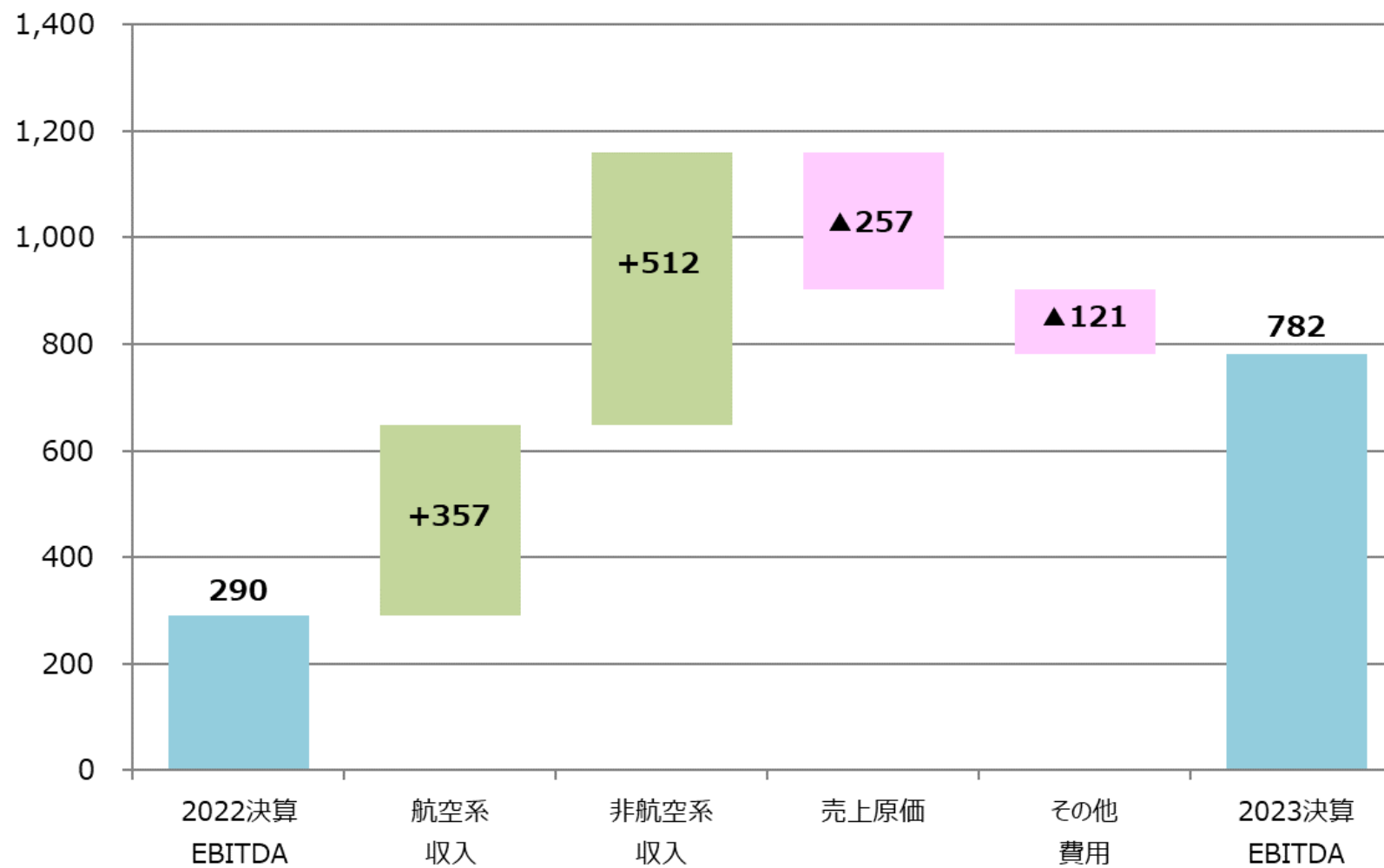
経営成績

【単位：億円】

	2022.4-2023.3	2023.4-2024.3	差額	%
営業収益	999	1,868	870	+87%
航空系	446	803	357	+80%
非航空系	553	1,065	512	+93%
営業費用（減価償却費除く）	(709)	(1,087)	(378)	+53%
EBITDA	290	782	492	+169%
減価償却費	(438)	(442)	(4)	+1%
営業損益	(148)	340	488	-
営業外損益	(109)	(107)	1	-1%
経常損益	(256)	232	489	-
特別損益	(17)	(9)	7	-43%
法人税等、非支配株主帰属損益	83	(68)	(151)	-
当期純損益*	(190)	155	345	-

EBITDA（前年比）

【単位：億円】



バランスシート

【単位：億円】

		2023.3.31現在	2024.3.31現在	増減
公共施設等 運営権等	流動資産	938	1,122	184
	うち 現金及び預金	717	818	101
	固定資産	15,104	14,731	(372)
	資産合計	16,041	15,853	(188)
公共施設等 運営権に係る負債等	流動負債	703	642	(62)
	固定負債	15,066	14,783	(283)
	負債合計	15,769	15,425	(344)
	株主資本	246	401	155
	その他の包括利益累計額	6	7	1
	非支配株主持分	20	21	1
	純資産合計	272	428	156
	負債・純資産合計	16,041	15,853	(188)
【参考】				
	有利子負債残高	2,332	2,242	(89)



営業収益分析

航空系：発着回数・旅客数ともに2019年度比90%以上の回復

→ **3空港合計の旅客数は4,413万人となり、2019年度比で92%まで回復。発着回数は2019年度比94%。**

→ 国際線旅客数・発着回数

2023年4月の水際対策の終了後、旺盛なインバウンド需要に牽引され、国際線旅客便の回復が一段と進んだことから、関西国際空港における国際線の発着回数は前年度から114%増。国際線旅客数のうち、外国人旅客数は1,502万人となり、開港以来、過去最高であった2018年度に次ぐ2番目の記録となった。

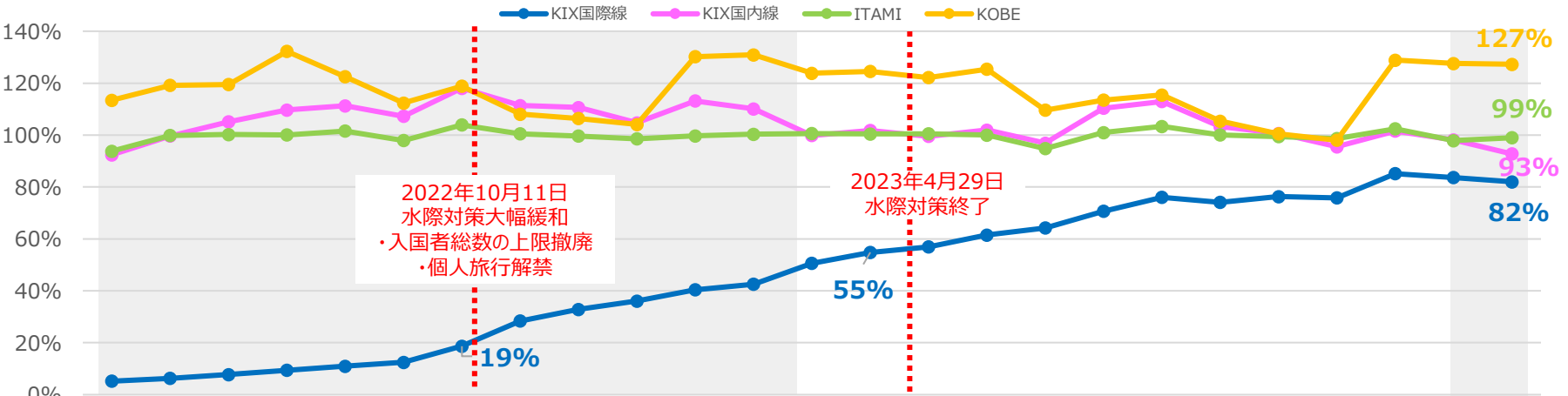
→ 3空港国内線旅客数・発着回数

3空港合計の国内線旅客便発着回数は過去最高であった2022年度に次ぐ2番目の記録となり、引き続き、高水準を維持。3空港合計の旅客数も、2019年度比97%まで回復。

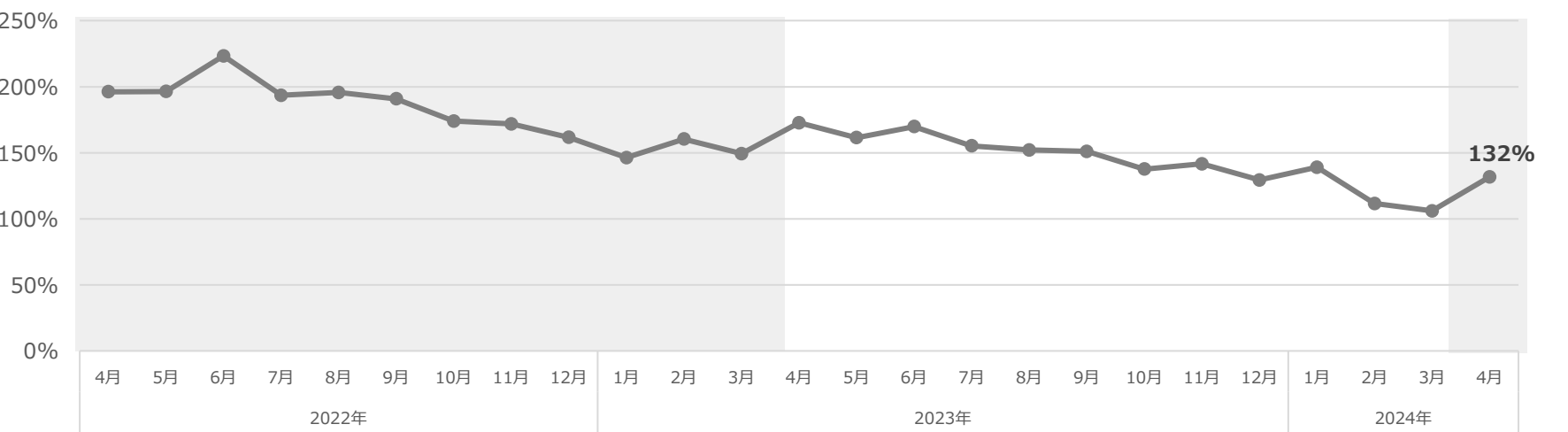
	2022年度	2023年度	前年度比	2019年度比
発着回数（万回）	28.0	34.2	+22%	94%
関西国際空港（国際線）	5.6	12.1	+114%	82%
関西国際空港（国内線）	5.1	4.9	-4%	100%
大阪国際空港（国内線）	13.8	13.8	+0%	100%
神戸空港（国内線）	3.4	3.5	+1%	106%
航空旅客数（万人）	2,759	4,413	+60%	92%
関西国際空港	1,150	2,588	+125%	90%
国際線	514	1,906	+271%	86%
日本人旅客	114	394	+245%	55%
外国人旅客	398	1,502	+277%	102%
国内線	636	683	+7%	102%
大阪国際空港	1,299	1,479	+14%	94%
神戸空港	311	344	+11%	105%
3空港国内線（万人）	2,246	2,506	+12%	97%

航空系：関西3空港 発着回数（2019年度比）

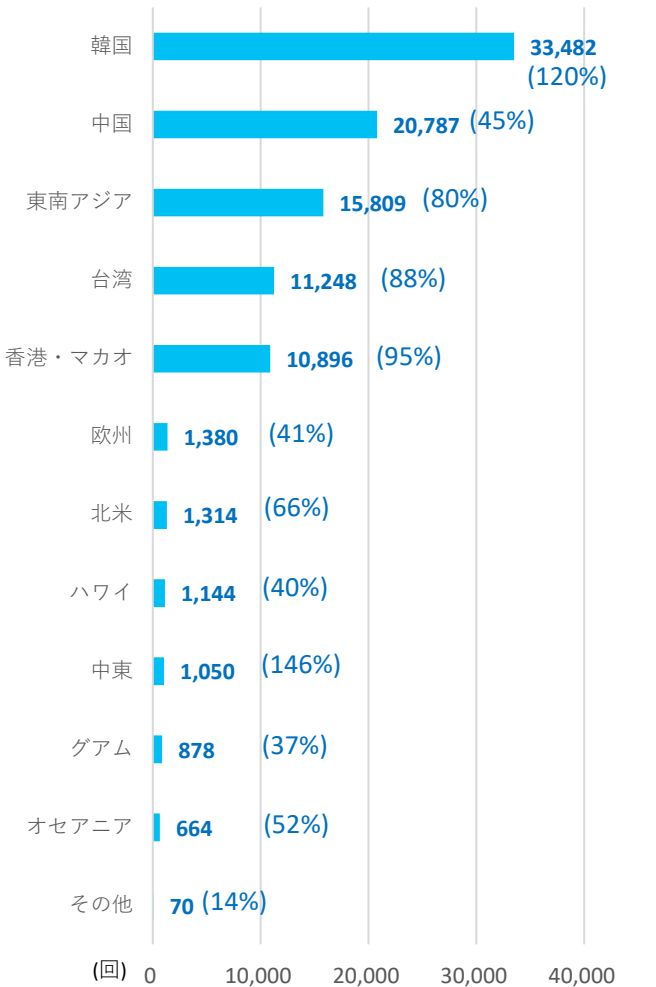
旅客便 2022年4月－2024年4月



国際線貨物便 2022年4月－2024年4月

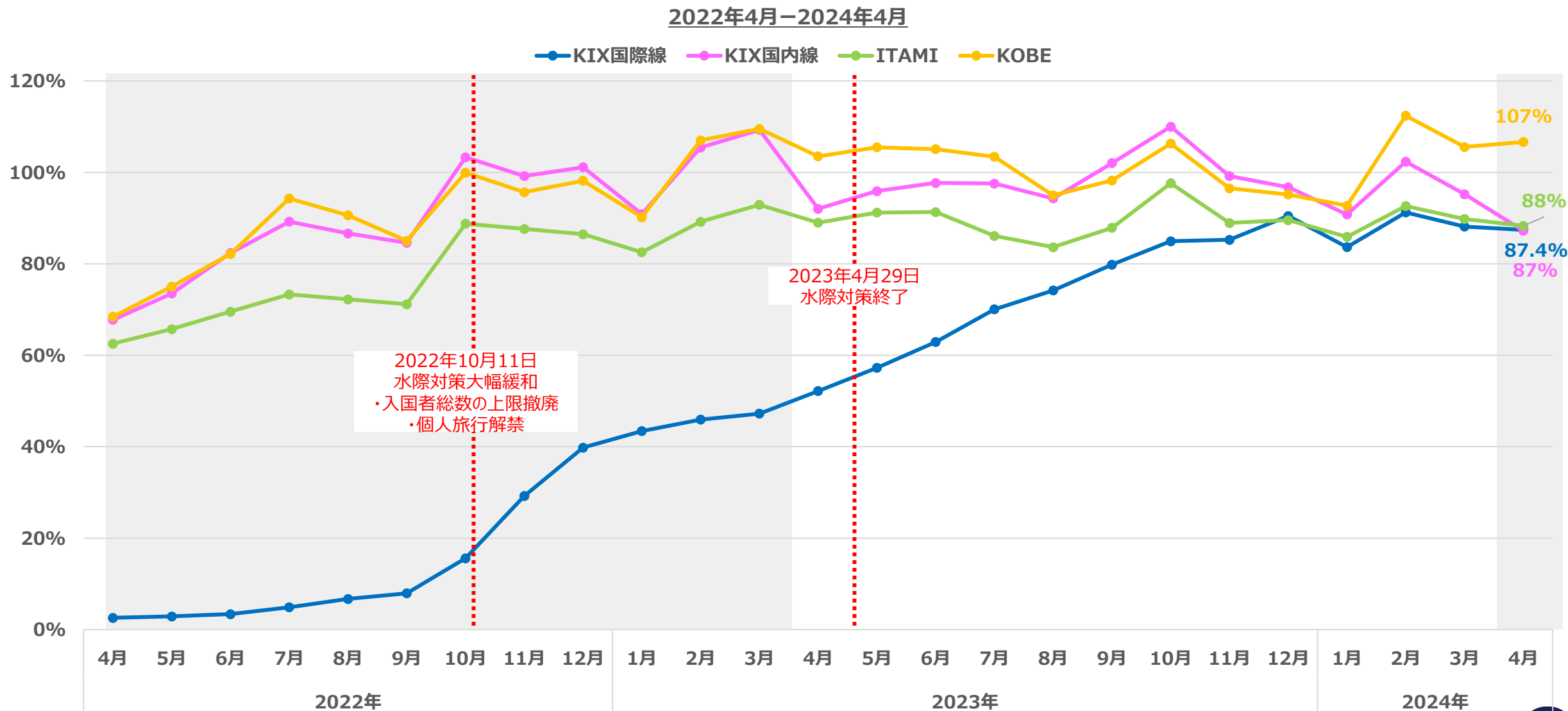


国際線旅客便 2023年4月-2024年3月
方面別発着回数 および2019年度比回復率



* 旅客便に関しては、2020年2、3月はすでに新型コロナウイルスによる影響を受けていたため、2023年2、3月は2019年比で記載

航空系：関西3空港 旅客数（2019年度比）

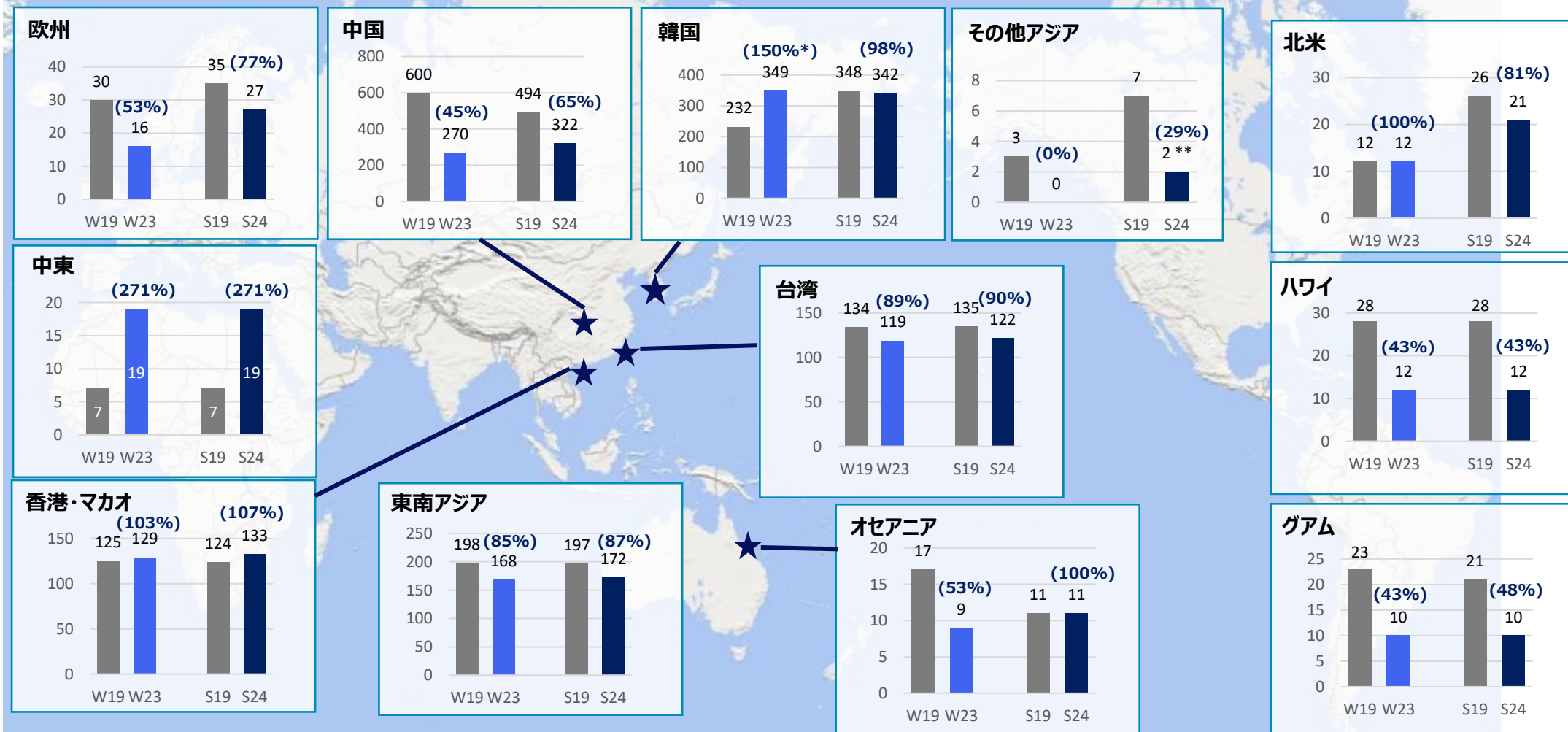


航空系：2024夏期スケジュール国際旅客定期便

2024年5月27日時点

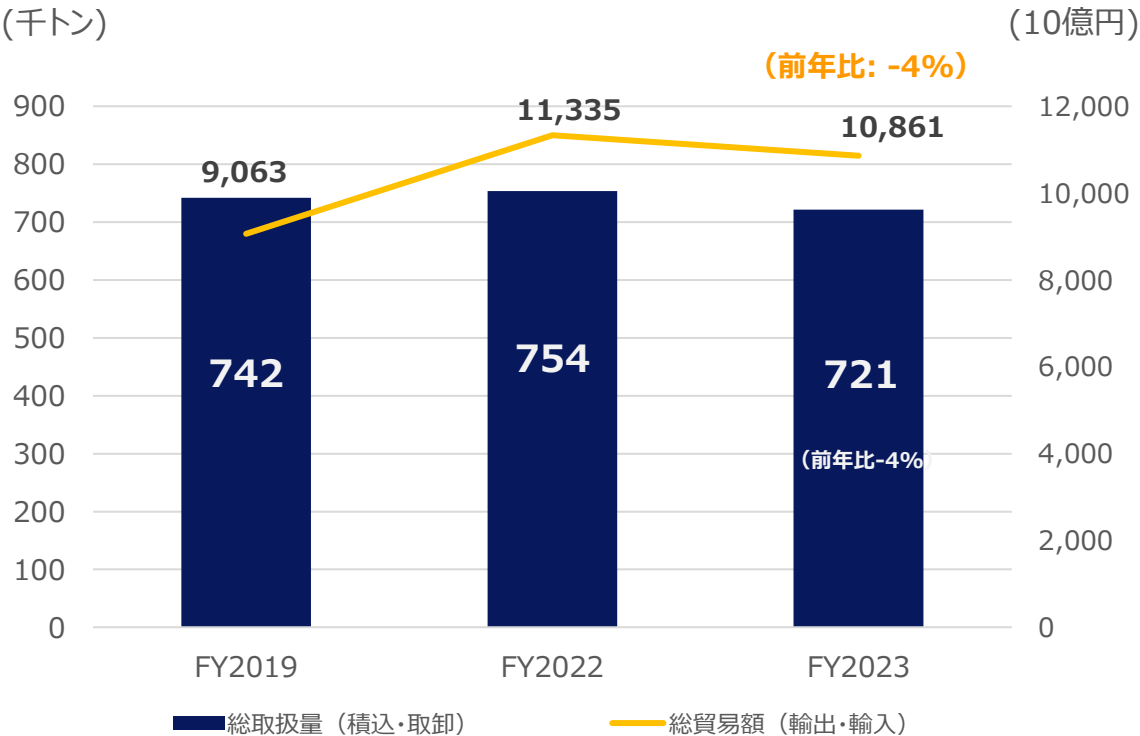
- ・ W23 は2023年冬期スケジュール3月ピークの便数
- ・ S24 は2024年夏期スケジュールの6月の計画便数
- ・ グラフ中 ()内の数値は2019年夏期/冬期スケジュールとの同期比較の便数の回復率

✈️ **1,193便** S19比回復率**83%** ✈️ **63社** 🌐 **54地点** W23 : 1,113便 W19比回復率79% 60社 52地点



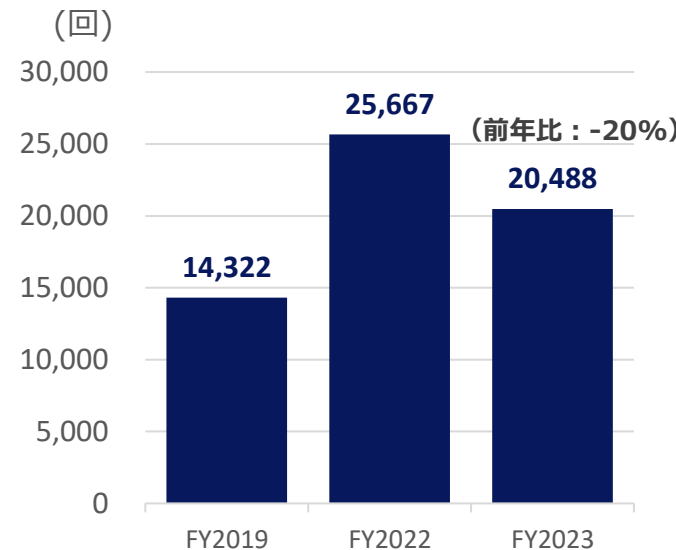
国際貨物：発着回数・貨物量・貿易額

KIX/国際線貨物量・貿易額

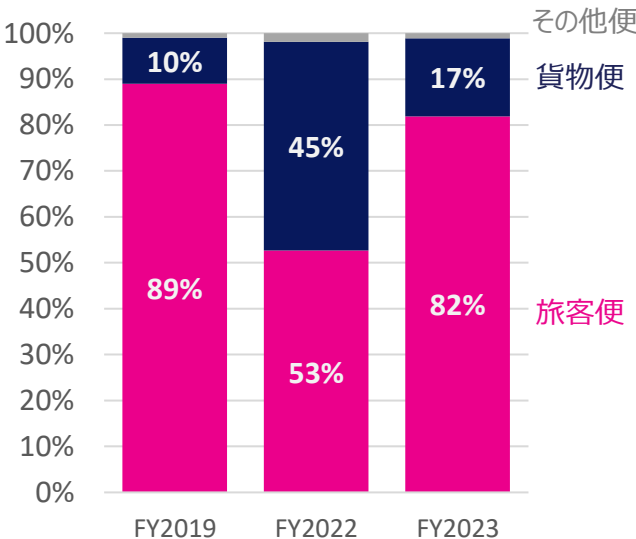


- ✈ 海上輸送の安定化・新規コンテナ船の市場投入により、航空輸送から海上輸送への回帰が起こっている。加えて、世界的な経済鈍化、長引く円安等の影響により、日本発着の航空貨物輸送需要は昨年度よりは減少しているが、コロナ禍前とは同水準で推移。
- ✈ 国際貨物便について、貨物需要の鈍化に加え、国際旅客便の復便に伴い貨物輸送キャパシティが増加していることもあり、発着回数は減少しているが、コロナ禍前比では高い水準を維持している。
- ✈ ECサイトを通じた売買市場の成長や、日本でもECサイト利用率が高まっていることから、特に中国発日本向けのEコマース需要は引き続き好調。また、半導体関連貨物は底堅く一定の需要がある。

KIX/国際線貨物便発着回数



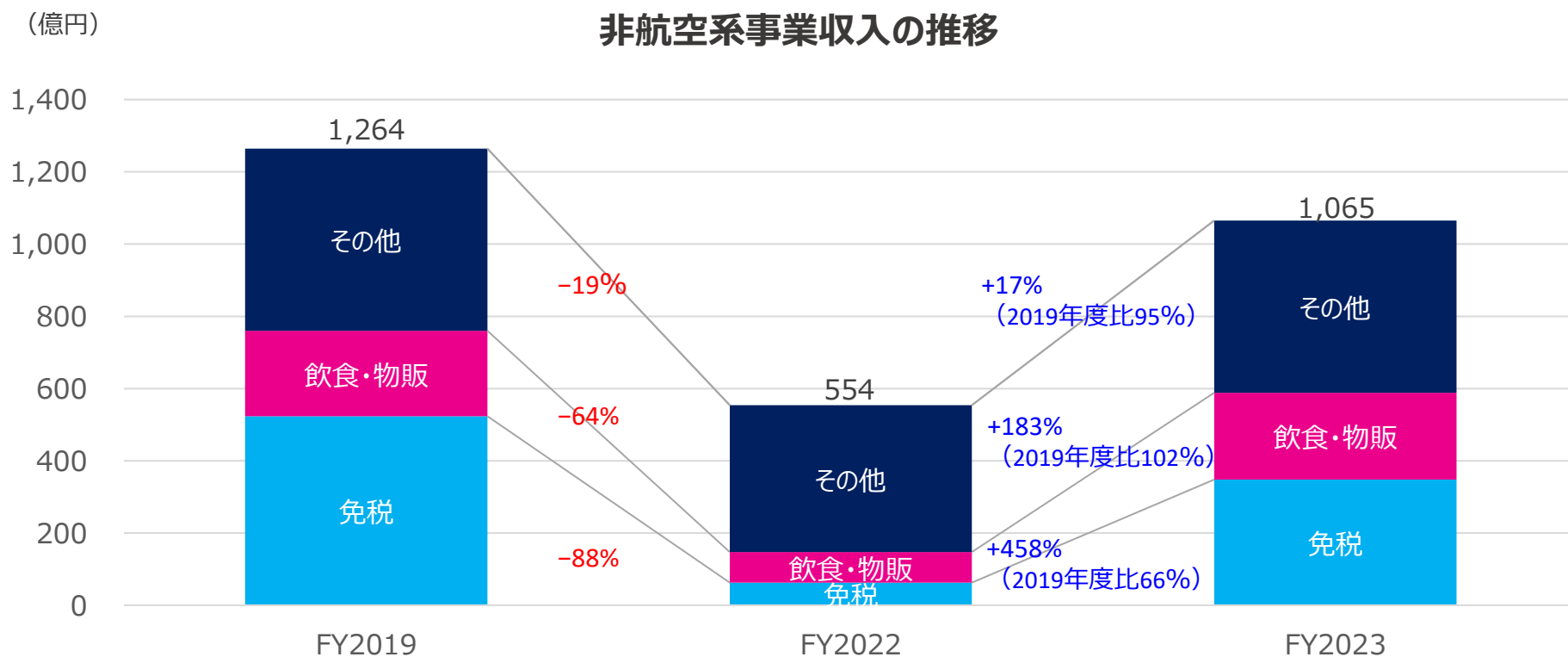
KIX/国際線発着回数シェア



*貿易額（税関発表）：2024年3月は速報値、2024年2月は輸出確報値、輸入9桁速報値
2024年1月分は確報値、2023年は確々報値、2022年以前は確定値

非航空系：国際線旅客の増加に伴い年度収入が倍増

- ➔ 国際線旅客の増加により、2023年度の非航空系事業収入は前年から倍増、2019年度の8割超えまで回復。
- ➔ 2023年12月に新国際線エリアが開業し、多くのお客様にご利用いただき、売上の回復につながっている。



非航空系：新規店舗について

- **2023年8月より一般エリアに飲食店舗が順次オープン**

- 一般エリア（第1ターミナルビル2階）に9店舗が新たにオープン

2023年8月8日：2店舗、10月1日：2店舗、12月1日：4店舗

2024年2月20日：1店舗

- エアロプラザに2店舗が2024年4月に新たにオープン

- **2023年12月5日 新国際線出国エリアオープン**

- 南北の出国審査場を中央に集約

- 国際線保安検査後に27店舗がオープン

（ 飲食：9店舗、物販：7店舗、ウォークスルー型免税店：1店舗、ブティック：9店舗、サービス：1店舗 ）

※オープン概要の詳細は[こちら](#)よりご確認ください





2023年度の主な取り組み

2023年度の主な取り組み

3空港

- ・関西初「ACIアジア太平洋地域総会」を神戸市で開催（5/16～18）
- ・関西3空港の合同採用ホームページを新たに開設（9/1）
- ・関西3空港で空の日イベントの実施を発表（9/1, 9/15, 9/20）
- ・関西3空港 クリスマスイベントを開催（12/7～12/25）
- ・新たなバードストライク対策の実証実験を開始（3/1）

KIX

- ・KIXで採取した海藻を阪南市へ移植（4/25）
- ・海外旅行の博覧会 in 梅田を開催（7/22）
- ・夏休み特別企画「親子環境ツアー」を開催（8/8）
- ・護岸の藻場が「自然共生サイト」として環境省から認定（10/6）
- ・機側警備の実証実験を実施（12/18）
- ・御翔印の販売を開始～空港初のオリジナル御翔印～（2/16）
- ・「KIX CULTURE GATE Project」を始動（3/27）



関西初「ACIアジア太平洋地域総会」を神戸市で開催



KIXで採取した海藻を阪南市へ移植



親子環境ツアーを開催



護岸の藻場が「自然共生サイト」として環境省から認定



「KIX CULTURE GATE Project」を始動

2023年度の主な取り組み

ITAMI

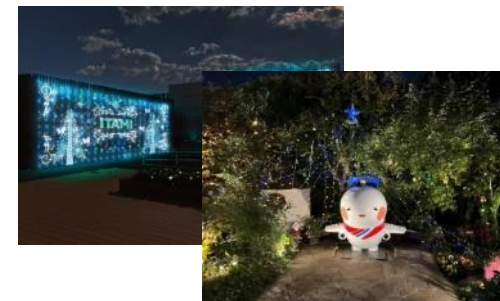
- ・大阪国際空港ウェディングプラン企画（7/7～）
- ・新しいフォトスポット「そらやん」ARの誕生（7/27）
- ・国内最大規模数のEV充電用コンセントの導入を発表（8/1）
- ・ウィンターイルミネーションを開催（12/1～3/14）
- ・CIRIUM 2023年定時出発率ランキング（中規模空港部門）で世界1位（2/9）
- ・EV充電サービス「WeCharge」運用開始（3/29）



新しいフォトスポット「そらやん」ARの誕生



CIRIUM 2023年定時出発率ランキング（中規模空港部門）で世界1位



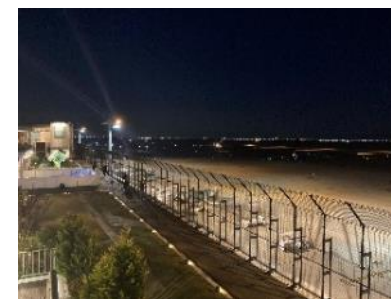
ウィンターイルミネーションを開催



KOBEランウェイウォーク

KOBE

- ・KOBEランウェイウォークを開催（7/22）
- ・夏休み遊覧フライトと空のお仕事教室を開催（8/22）
- ・大阪駅から直通バスの運行開始（9/15～）
- ・「ピカチュウジェット 富士山遊覧チャーター」を実施（12/9）
- ・滑走路ナイトウォークツアー（12/15）
- ・開港18周年 サンクスフェスを開催（2/17、2/18）



滑走路ナイトウォークツアー



夏休み遊覧フライトと空のお仕事教室を開催